

7月の学習会の案内

平成27年7月6日

7月に突入しました。水泳の学習が始まり、夏を本格的に感じる時期となりました。1年生といっしょにプールに入ると、その日はもうくたくたになってしまいます。しかし、子どもたちの生き生きとした表情や水遊びを通して気付いたことを話す姿を見ていると、疲れも吹き飛ぶようです。子どもからパワーをもらいながら、残りわずかな1学期を乗り切りたいと思います。

さて、語る会では来年に行われる日本国語教育学会西日本集会へ向けて準備を進めています。以前もお伝えしたように、語る会のメンバーを3つのグループに分けて研究を進めているところです。お忙しいところかとは思いますが、ぜひ多くの先生方に参加いただけるとありがたいです。よろしくお願い致します。

新たに参加を希望される先生へ

本学習会では、いつでも参加をお待ちしています。「初めてなのですが」と言って会場にきてくだされば、喜んで案内させていただきます。どうぞ気軽にお越しください。お待ちしております。

日 時	平成27年7月18日(土) 9:30~12:00
場 所	岡山大学教師教育開発センター 東山ランチ 2F 授業研究室 TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455
連絡先	小出 真規(こいで まさき) TEL 090-5704-7339 m-koide@okayama-u.ac.jp (学校パソコン) m.koide.freewill@icloud.com (携帯メール) ※小出の携帯メールアドレスが変更になっています。
内 容	西日本集会へ向けての教材研究および授業構想(グループごとに内容が異なります)
<お知らせ>	
※ <u>駐車場について</u> 東山ランチの駐車場をお使いください。	
※ 会費納入 まだの方は新年度の年会費をお願いします。2000円です。	

6月の学習会の報告

6月の語る会は、3つのグループ（学びのつながり・発達段階のつながり・学習者のつながり）に分かれてそれぞれのグループで教材研究を行いました。

小川先生より

○今週岡大で西日本集会の話（方向付け）があった。基本的な方向性として、「学びのつながり」「育ちのつながり」「学習者のつながり」の3つの柱で進めていこうとしている。

「学びのつながり」…読む学習を通して子どもが力をつける。その中で、書く・聞く・話す活動に展開していく。読む学習の中で反応を身に付けるだけではいけない。身に付けたことばの力を活用することが大切。それが学力を身に付けるということ。活用型の授業を考えていきたい。

「育ちのつながり」…発達段階がいくらか措定されているので、授業を考えていく際に、子どもが身に付けるべきことばの力をいくつか挙げる。その中で、軸になることばの力は何かをしっかりと考えることが大切。例えば、筆者の視点で読むという立場を大切にしながら読む際に、共感的に読ませるのか、批判的に読ませるのかということに授業者が考えているかどうかによっても変わってくる。子どもの姿におととしてことばの力を考えていきたい。

「学習者のつながり」…学び合いの学習の中で、学習者がどうつながっていくか。残りの10分で、先生が答えを持って子どもをそこに追い込んでいくという発想からの脱却。A・B・C・Dのアプローチする言葉のちがいにより生まれてくる読みを交流することによって、自分の読みが意識されるという自立した読みを目指したい。累積的会話と探究的会話という会話の種類がある。累積的会話は、互いの考えを発表して内容を広げていくという段階の会話。探究的会話は、価値ある反応に気づき、ふくらませて読んでいくという段階の会話。学習者の中で行われる会話についても研究していきたい。

これらの3つのつながりは、ちがうようで、貫くものは一緒である。価値ある読み方・反応を軸にして、読む・話す・書く・聞くがつながっていくようにしたい。子どもがことばを獲得していくことのできる授業を目指したい。

○タイムスケジュールについて

来年度に向けて、2学期中には実践しないといけない。夏休みまでに単元構想などは練っておきたい。

グループごとに分かれて教材研究・発表

●①グループ(学習者のつながり)

題材「時計の時間と心の時間」の単元構成を行った。累積的会話を探究的会話にしていくために、どうしたらいいか考えていった。焦点化した発問ではなく、子どもの発言の中の気づきから、累積的会話を作っていく。

●②グループ(学びのつながり)

5年「生き物は円柱形」の前の話合いを受けて、2次から3次へのつなげ方、3次の学習活動について話し合った。

①書く活動へ…身の回りのものを取り上げて、一見ちがうように見えるものから共通性を見つける

(例：布製品、台所用品、服、昔遊び…など)

②読書活動へ…筆者にふれる経験ということで、「歌う生物学者」とも言われている本川さんのCD「生き物は円柱形」の歌詞から、生き物についての図書資料から根拠を探す。→音楽の学習とタイアップして、歌（歌詞）を作らせるという表現活動も考えられる。

③批判的に読む…今回は具体案が出なかった。

●③グループ(発達のつながり)

6年生の教材で授業をすると、低・中学年でどんな学びができていればよいかを探っていく。

- ・問いと答えの関係…問いかけの文がなくても、「筆者の言いたいことははじめにあるな」など、読みの構えをもてるように
- ・筆者反応…筆者の書きぶりをなんとなく評価しているところから、分析的に反応できるように
- ・自分に引き寄せる…文章の事例に引き寄せて読む、筆者の伝えたいことに反応しながら読む…など、自分に引き寄せて読むことができるように、まずは内容を読み取るところから大切に

赤木先生

- ・話し合いにはレベルがある。対立的な話し合い（意見のぶつけ合い）から、累積的な話し合いへ。そして、探究的な話し合いへと高まっていく。話し合いの進め方もレベルごとに合わせていきたい。

低学年…共感的に話し合うところから

中学年…探究的な話し合いの基礎をつくる

高学年…自分たちで探究していく、内容をはっきりさせた話し合いができるように

まずは、累積的な話し合いをするところから始めて、焦点化の発問をするところから、探究的な話し合いにシフトできればよいのではないか。

小川先生

- ・直観力を大切にしたい。一度読んで、筆者が伝えようとしていることは何か、というところを大切に。中学年のレベルでやっておき、素地をつくっておかなければいけない。
- ・直観からスタートした読みの中で、文章を支えている仕掛けの工夫を確かめる。そして、精読で確かめていくことで、検証する。出口では、読みが高まっているように。

- ・おもしろ見つけ…基礎的なことばの力を身に付ける
丸ごと読み…ことばの力を活用する という発想。

どうしたことばが身に付いているかを見立てないといけない。そのために、教材・単元ごとにカリキュラムをつくるべき。また、構想カリキュラムだけでなく、実践カリキュラムをつくるのが理想。

- ・育ちのつながりとしては、子どもにどのようなことばの育ちが育ちうるのか、どのことばの育ちが必要なのかということを考えていかなければいけない。複数教材を研究しながら考えていきたい。